第一回 文教向け IT 研究会 議事録

日時:	2010/11/26(金)15:00〜18:00
会場:	クオリティ(株) 本社 6F 会議室
テーマ:	大学での iPad/iPhone 利用は単なる紙の置き換えか？〜青山学院大学の導入事例より〜
講師:	インフォテリア株式会社 執行役員 スマートソフトウェア部 穴沢悦子様 株式会社東京システム技研 ユビキタスソリューション部 統括マネージャー 金野 康之様
司会・進行:	文教向け IT 研究会座長 大阪市立大学大学院 創造都市研究科 都市情報学専攻 博士(後期)課程 「システム管理者の眠れない夜」(IDG)著者 柳原 秀基 氏

※ 当研究会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

■ 講演への質疑応答

Q(参加者):iPhone で Handbook を使うということだが、ディスプレイが小さいし、今ある、教科書の代わりにはならないだろう。

A(穴沢氏):教授は授業で、教科書とは別に、ppt 資料作成をし、教材として使っている。Handbook ではその ppt の方を収めている形。もともと ppt は教科書の要点を絞った形なので、十分に iPhone でも見られるので大丈夫。教科書を Handbook に入れるのは無理かもしれない。しかし iPad なら可能だと思われる。

Q(参加者):(Handbook は)Podcast 形式で、音声を ppt につけるということはしているのか？

A(穴沢氏):Handbook では、やっていない。動画として音声は再生できるが、単純な音声だけのファイルは扱っていない。

(金野様):淵野辺キャンパスでは、学校設備として教室にハイビジョンカメラがあり、主要な授業は撮影、後で配信するということをやっている。なんで Handbook を使わないか→コストの問題。

Q(参加者):Handbook はクラウドサービスという理解でいいか？

A(穴沢氏):クラウドの正確な定義は満たしていないが、SaaS では提供している。

Q(座長):コンテンツ作成側から見て、Handbook はどうか？自分たちの持っているコンテンツをどの程度このツールにのせることができるか？(コンテンツ作成側:会場に2名)

A(参加者):

・ユーザがコンテンツを作成できるという部分が手軽でよいと思う。

・魅力的。紙の本はコスト面から、カラーでできない、教科書がイメージできない用語などが入っている場合は、Handbook のようなシステムはいいと思う。

Q（参加者）：講義前講義後でpptが変わることがある。（メモを講義中に追加する場合）Handbook ではそれはできるか？

A（講師）：できる。実は、青山学院大学もそのやり方を今までやっていて、iPhone/iPadを配布するので、それをしたいということで Handbook 導入へつながった。

Q（参加者）：ppt 式の授業は 8 割以上なのか？

A（参加者）：ppt は情報量が入るが、黒板と違って、切り替えたら、前の情報が消えてしまう。ppt 式の講義が必ずしもよいとは限らない。また、学校によって様々だが 8 割以上ということはない（推測）。また、ppt 資料を配布すると寝てしまう学生が多いので、最近は講師の間では ppt を穴埋め式にするのが流行っている。→が、最近はその穴に入る答えは学生の間で教えあうという流れになってしまっている。

Q（参加者）：教授や学校によって授業スタイルが違うとのことだが、iPad を使って授業をしたい教授がいる場合は、簡単に学部で導入できるものなのか？

A（座長）：学生に費用が発生することは一人の教授の一存で決めることはできないだろう。事例としてはいかがですか？→穴沢氏へ

A（穴沢氏）：PR として、「iPad をもれなくもらえる」ということは学生集めには有効な手段。使いたい教授は iPad を使っていくし、使い方も先生によってまちまちである。プログラミングを教え、App store に登録していくという講義形式もある。Handbook を使う先生もいる。

Q（参加者）：iPad 導入を決め、推進していくのは教授なのか？

A（穴沢氏）： 青山学院大学様の事例では、新しいもの好きの教授が先駆的に、Handbook や出欠管理のシステムを導入していっている。最初は一人の先生が始め、だんだんと広まっていく。頑なに使おうとはしない教授ももちろんいらっしゃる。

Q（参加者）：大学として、iPad 導入を決める際に、配るだけなのか、それとも iPad を使っていく講義形式を推進していく体制を整えているのかどっちなのか？

A（参加者）：おそらくそれは大学によりけり。配るだけの大学は失敗だとは思うが・・・。

（参加者）：文教営業から離れて 8 年くらい立っているが、某美大などでシステム系を提案や構築をした経験がある。やはり、教授によって、IT に強い人とそうでない人個性が様々なので、Handbook のような形で、講義に取り入れていくのもよいが、まずは東京システム技研さんの方の、出欠管理などからはじめていくのがよいと思う。

Q（座長）：出席管理の際に各教室の机に RFID を貼っておくというのはどうか？

A（参加者）：RFID のリーダーを机にセットするというソリューションは現状ではない。ただ、学生のカードに IC チップを入れて、タッチすることで出欠を取るというソリューションは現実にある。RFID を机に設置するのはお金がかかる（机の数だけ必要なため）また新しくなったらその都度取り替えるなどの動作で費用がまた発生する。なので、どちらかというと、固定設備は導入したくない。iPhone/iPad のような学生の持ち物の中で稼働するようなものであれば

色々な用途がある。出席管理がうまくいかなかったとしても iPhone/iPad は無駄にはならない（他のアプリもあるので）。

Q（座長）：大学にシステムとして導入した際に、色々な LMS が混在する状況、また、大学の教務系データとの連携をとらないと使いものにならないが、そういった間の連携はどうしているのか？

■ まとめ

- 大学の場合、全教員が結束して、導入ということはありえない。教員によって使えるツール・アプリケーションを選んでいくというスタイル。
- ビジネス系ではセールスフォースドットコムなどのように、今後はクラスの運営そのものを支援するサービスを提供するようなビジネスがよいかもしれない。
- 大学でどこで iPhone / iPad を使っていくのかは大学によるのだろう。どこでどういうことをやらせたいのか？というのに合ったツールを導入していかないと導入しても失敗になってしまう。うまく教員が使っていかないといけない。先を走っている大学が引っ張っていかないと iPad 導入は広まらない。また、学生の人気が高いという事で学生を集める効果があるのであれば、学校としても、それをせざるを得なくなってくるだろう。